



森のおはなし

— column —

それは「松くい虫」ではありません

森林総合研究所東北支所 中村 克典

1. はじめに

東北地方の各地で松くい虫被害からマツを守るたかひが続いています。松くい虫被害の正体は、マツノマダラカミキリによって運ばれるマツノザイセンチュウが原因で起こるマツの木の病気、すなわちマツ材線虫病ということになるのですが、マツノマダラカミキリなどの昆虫の加害で木が枯れると信じられていた時代のなごりで、「松くい虫」という呼び名が今も使われています。そのような経緯で、「松くい虫」という言葉が今日使われるときには、木が枯れる原因であるマツ材線虫病を指す場合と、病原体を運ぶマツノマダラカミキリを指す場合があることについて、まずはご理解下さい。

2. 松くい虫の木くず？！

松くい虫被害の侵入や拡大が心配されているマツ林を歩いていて、枯れ木の根元に大量の木くず（写真1）が積もっているのを見つけ「これは、松くい虫の被害では？」と驚かれたことはないでしょうか？確かに、松くい虫被害を引き起こすマツノマダラカミキリは枯れたマツの樹皮下を食い荒らして木くずを出します。しかし、それは樹幹から外部に大量に排出されるようなことはなく、形状的にも細長い繊維状のものが多く含まれていて



写真1：マツの木の根元で見つかった大量の木くず

（写真2）、写真1のものとは見た目が全然ちがいます。また、マツノマダラカミキリは枯れ木の中でも樹幹上部や太枝に多く生息し、根元のあたりにはほとんどいません。枯れたマツの根元の木くずは、マツノマダラカミキリが出したものではありません。



写真2：枯れたマツの樹皮下から現れたマツノマダラカミキリ幼虫とその木くず

3. 根元の木くずを出したのは

実は、枯れたマツの根元に木くずを大量に排出した「犯人」は、オオゾウムシです。成虫は体長が1

～3cmにもなる大型のゾウムシの仲間（写真3）、幼虫は針葉樹、広葉樹の枯れ木の根元付近の湿った材を食べて穴を作ります（写真4）。このときにできた糞や食べかすを、穴の入り口を覆う樹皮の隙間から外界に排出するので、オオゾウムシ幼虫の住み着いた枯れ木の根元には大量の木くずがたまることになります。



写真3：オオゾウムシ成虫

オオゾウムシは日本中どこにでもいる普通の昆虫で、マツノマダラカミキリのように病原体を運んで木を枯らすようなことはしません。ただ、餌になるような伐倒木や枯れ木があると多数が穿孔して



写真4：マツの枯れ木の幹に作られた穿孔孔に潜んでいたオオゾウムシ幼虫

材を穴だらけにしてしまうことがあります。立木であれば折損、倒伏の原因になりますし、貯木場で発生すればせっかくの木材が台無しになってしまいます。また、オオゾウムシは松くい虫被害を発生させるわけではありませんが、枯れたマツの匂い成分を使った誘引器にはオオゾウムシの成虫がたくさん飛来しますし（と云いつつ、筆者はオオゾウムシ成虫が実際に飛んでいるところを目撃したことはないのですが）、松くい虫で枯れたマツにはよくオオゾウムシ幼虫が加害しています。松くい虫被害で発生する大量の枯れ木を利用して繁殖している虫、という見方ができそうです。

4. おわりに

このように見てくると、オオゾウムシは松くい虫被害とまったく無関係、と言うわけにはいかなくなります。つまり、オオゾウムシの繁殖を示す枯れたマツの根元の木くずは、「松くい虫」が出したものではありません。そのマツ林に松くい虫被害が広がっている可能性を示す指標にはなっているのです。